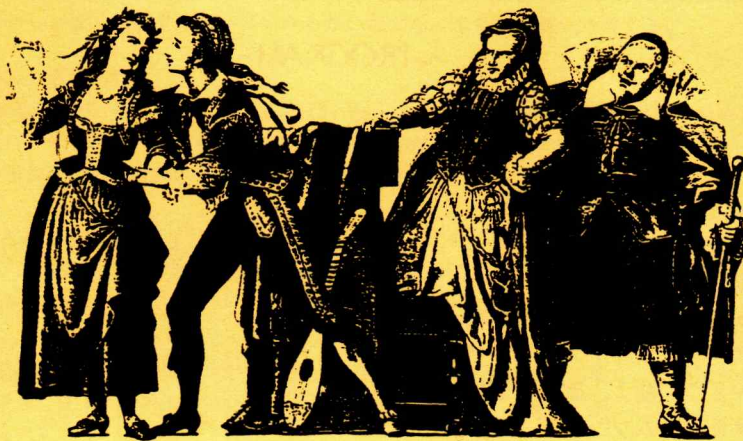


ピアッツァ・アルテ
音楽教室

Presents

～コンチェルト プリモ「オペラへの誘い」～

Concerto Primo



1995年10月7日(土), 8日(日)

開場 PM 1:30

開演 PM 2:00

会場：ピアッツァ・アルテ・ホール

“コンチェルト プリモ” 開催にあたって

本日は、お忙しい中、コンチェルトプリモにご来場頂き、誠にありがとうございます。これまで私も、音楽教室の講師として教えていく上で、舞台での演奏をしていくことも多くのひらめきを得られるなど大切なことであると考え、そういう機会があると可能な限り出演するようにしてきました。

そんな折、ここピアッツァ・アルテ音楽教室に集う、若さと将来性のある講師にも多くの経験をさせたいと考えていたところ、声楽の講師会で自発的にコンサートへの意欲が高まり、今日を迎えることとなりました。

出演者一同、本日は精一杯演奏させていただきますが、暖かいご声援とご批評を頂ければ幸いです。

最後になりましたが本日のコンサートのためにご協力頂いた多くの方に御礼を申し上げます。

ピアッツァ・アルテ音楽教室 専任講師
堀部 一寿

～PROGRAM～

第1部

- | | |
|---|------------|
| 1. 最後の陶酔 (妹尾 公美子) | レスピーギ作曲 |
| 2. 海辺の光景 (星 典子) | チマーラ作曲 |
| 3. 最後の歌 (堀部 一寿) | トスティ作曲 |
| 4. ヴェーゼンドンクの5つの歌～夢 (西山 祥子) | ワーグナー作曲 |
| 5. オペラ「ジュリアス・シーザー」 ～2つの瞳よ、御身らが慕わしい (星 典子) | ヘンデル作曲 |
| 6. オペラ「サムソンとデリラ」 ～あなたの声に私の心も開かれていく (西山 祥子) | サン＝サーンス作曲 |
| 7. オペラ「ワリー」～ああ、わがふるさと (妹尾 公美子) | カタラーニ作曲 |
| 8. オペラ「道化師」～プロローグ (堀部 一寿) | レオンカヴァルロ作曲 |
- ピアノ伴奏 門脇 郁香里

第2部

- オペラ「フィガロの結婚」抜粋 モーツァルト作曲
1. 序曲
 2. 「三尺…四尺」 (フィガロ、スザンナ)
 3. 「もう飛ぶまいぞこの蝶々」 (フィガロのARIA)
 4. 「愛の神よ、照覧あれ」 (伯爵夫人のARIA)
 5. 「恋とはどんなものかしら」 (ケルビーノのARIA)
 6. 「戸をあけなさい鍵を外して」 (スザンナ、ケルビーノ)
 7. 「さあ、どうぞ (手紙の二重唱)」 (スザンナ、伯爵夫人)
 8. 「楽しい思いではどこへ」 (伯爵夫人のARIA)
 9. 「フィナーレ＝ゆるみましょう」 (スザンナ、伯爵夫人、ケルビーノ、フィガロ)
- ピアノ伴奏 木原 佐恵子

オペラ「フィガロの結婚」あらすじ

スペインのセヴィリアにほど近いアルマヴィーヴァ伯爵邸内の一室。
伯爵の召使フィガロは、このたび伯爵夫人の召使、スザンナと晴れて結婚することになった。この部屋は新婚生活を送るために伯爵に与えられたものである。

2番「三尺…四尺」

フィガロは、ベッドの置き場を決めるため、物差しを手にして、床の寸法を測っている。スザンナは鏡の前で、婚礼用の髪飾りの具合をためすのに余念がない。

ところが、スザンナに気のある伯爵は数年前廃止したはずの初夜権（領内の花嫁を初夜だけ領主に仕えさせる）をもちいて、スザンナを手に入れようと企んでいる。このことを知ったフィガロは大いに憤慨、持前の才智で彼女を守る決意を固める。小姓のケルビーノは、庭師の娘との逢引を伯爵にみつかつて、危うくクビになりかけたばかりというのに、もうスザンナに言い寄ろうとし部屋にやって来た。そこへ、伯爵もスザンナを口説きに来たのでケルビーノとはち合わせて大騒ぎ。伯爵はケルビーノに連隊送りを言い渡す。

3番「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」

フィガロは、しょぼくれたケルビーノをからかいながら、士官する勇気を与える。

4番「愛の神よ、照覧あれ」

伯爵夫人は夫の愛が日毎にさめていくのを悲しむ。夫人とスザンナが伯爵の浮気を嘆きあっているところへ、フィガロが現れ、伯爵の企みを打ちこわす計画を話し始める。その計画とは、スザンナに扮した女装したケルビーノと伯爵との密会の現場を取押さえよう、というものである。

5番「恋とはどんなものかしら」

フィガロと入れ替わって、ケルビーノが登場。夫人にも気のあるケルビーノは自分の想いをこめて作った詩を夫人の前で読み上げる。

そこへ伯爵がやって来たのであわてて夫人はケルビーノを衣装部屋に隠す。伯爵はケルビーノがいるらしいと気づき、夫人との仲をうたがって、扉をこじあける為に道具をとりに行く。

6番「戸をあけなさい、鍵をはずして」

スザンナはケルビーノを衣装部屋から出すが、どこにも逃げ道はなく、せっぱつまったケルビーノは、2階の窓から庭に飛び降りて、逃げてしまう。

7番「さあ、どうぞ=手紙の二重唱」

夫人は、伯爵をあいびきに誘い出す手紙を口述してスザンナに書き取らせる（夫人がスザンナになりすまして伯爵との密会の現場に現れるという作戦）。

8番「楽しい思い出はどこへ」

夫人は、こんなことまでしなければと思うと情けなくなるが、伯爵への愛を貫く事を決意する。

伯爵邸の庭園、夕暮れ。スザンナの衣装を着た夫人のもとへ伯爵が現れ、スザンナだと思いきみ甘い言葉で口説く。そこに邸の皆が現れ、伯爵がスザンナだと思って口説いていたのが夫人とわかって面目まるつぶれ。伯爵は平謝りに謝る。

9番「フィナーレ=ゆるしましょう」

夫人は伯爵を許し、一同はこの夫人の寛大な心に感動し喜び合う。すべてが丸くおさまり幕になる。

出演者 Message

堀部 一寿 (バリトン・フィガロ)

イタリアにも留学しましたが、とにかく昔からイタリアオペラは大好きです。第1部で歌う2曲の人間臭さ、第2部のモーツァルトの軽妙な明るさ、共に大好き。

自分の普段見せない隠れた面を見せるのは結構恥ずかしかったりもしますが、実はそれが快感だったりもする今日この頃です。

星 典子 (ソプラノ・スザンナ)

今年の春、音大の音楽科を卒業しました。オペラの経験は、全くなく、今回のように動きながら歌うのは初めてです。なかなか思うように動けず、悪戦苦闘の連続でした。

まだまだ未熟ですが、今日は精一杯、歌い演じますのでよろしく願いいたします。

妹尾 公美子 (ソプラノ・伯爵夫人)

お客様をこんなに間近にして唱うのは初めてのことなので、いつもの演奏会とは違った感覚です。あんまり近すぎて、皆さんと見つめ合ってしまうかもしれませんが、その時にはにっこり微笑んで下さいね。

西山 祥子 (メゾソプラノ・ケルビーノ)

メゾソプラノは、オペラの中でズボン役が多く、第2部のケルビーノもそのうちの役です。女性でありながら少年の仕草など、とても難しいのですが、好きな役柄なので、楽しく歌い演じることができれば、と思っています。

門脇 郁香里 (第1部ピアノ伴奏)

今、伴奏合わせのまっ最中です。人間の声がかんなんにもきれいなこと、鍛えられた声の表現力を再認識しています。私もピアノ(ピアノ伴奏)を通して“歌うことができる”よう精一杯頑張ろうと思っています。

木原 佐恵子 (第2部ピアノ伴奏)

学生時代はソロ中心に勉強してきましたが最近では伴奏、アンサンブルも勉強しています。今回、抜粋ではありますが、一つのOperaを序曲からFinaleまでピアノ伴奏するというのは初めてで、私自身今日を楽しみにしてきました。短い時間ではありますが、皆様に楽しい一時を楽しんで頂けたらと願います。

ENDO企画 [遠藤 淳子・江塚 晶子・白川部 恭子・丸山 泰恵・安川 香澄] (第2部、楽団員&女中)

何か面白い事をやるための集団です。妹尾先生に歌唱指導を受けています。コンサートのお手伝いを引き受けてしまって後悔!先生方の素晴らしいオペラにドタバタ芝居は邪魔なのでは!?...だが、それは堀部先生の趣味だった...。来春3月、同ホールにて『シスター・アクト』公演予定。

Concerto Staff

企画: コンチェルト・プリモ
構成: 堀部 一寿
脚本: 堀部 一寿・遠藤 淳子
制作: 妹尾 公美子・星 典子・西山 祥子
協力: ENDO企画・彦坂 憲宣・堀部 浩人

当日 Staff

受付: 柿沼 英美子・菊地 恵美子
樽井 聡子・宮本 尚美・大村 陽子
裏方手伝い: 萩原 和代・中条 朋子
ビデオ撮影: 林 正男